



病理組織検査報告書

H1607354

氏 名 : ヒョウリ 知ウ **SAMPLE** 47 才 男 患者番号 : 123456 採取日 : 2020/1/7

依頼医療機関名 : パソネット医院

依頼医 :

検体 : 胃



ID	123456	病院名	パソネット医院	様
(フリガナ)	ヒョウリ 知ウ	依頼科		科
患者氏名	病理 太郎	依頼医		
生年月日	1969 年 1 月 1 日 47 才	採取日	2020 年 10 月 28 日	
		臓器数	☒ 1臓器 ☐ 2臓器 ☐ 3臓器 以上	

臨床診断

体中部小弯に発赤隆起あり R/O IIa

検査部位略図、材料、採取方法、病理医への依頼内容等

臨床経過、所見

Bx ①②③④

1 2 3 4

【病理検査結果】

Adenocarcinoma, tub1-2, of the stomach, Group 5 (①~④)

【病理所見】

①②③④ Ca(+): Adenocarcinoma, tub1-2.

コメント : ①~④は Ca(+) ですが、2つの cell phenotype が混合しているように見えます。標本②が分かりやすいので、この標本でご説明いたしますが、②-1の下半分や②-2の大半に見られる、円柱状の dark cell からなる異型腺管 (Ca)は、intestinal type に見えます。一方、②-3や、②-2 (中心部) は、核が小型で丸いか多形性がめだち、細胞質が明るく弱好酸性の立方状細胞からなる異型腺管(Ca)は gastric type に見えます。標本①にもこれら2つの要素がみられますが、③ではgastric type のみです。④は、intestinal type がごく少量みられます。いずれにしても、同じ箇所からの標本であり、2つの phenotype には移行もあるようなので、origin は一つとみたいです。そして、細胞(核)異型は、gastric type の方が弱いので、gastric type → intestinal type への進行があったのかもしれません。

また、③の gastric type の像は、最近問題となっている、fundic gland carcinoma を思わせます。PPIの長期投与の履歴はないでしょうか。ご検討ください。

なお、上記で、gastric/intestinal とした腺管が、真にそうであるかについて (intestinal type とした腺管は mucous neck cell type の可能性もあり)、免疫染色で確かめたいところです。

報告日 : 2020/1/10

(株)パソネット

病理医 1 : 組織 良子

病理医 2 :

本報告記事を公表される際は予め弊社までご連絡ください。



病理組織検査報告書

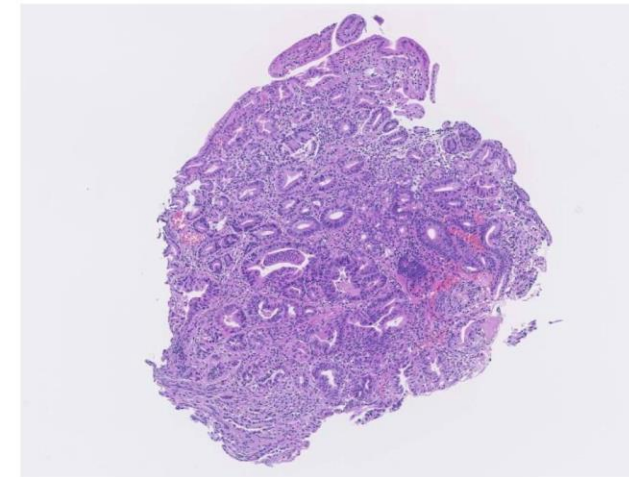
H1607354

氏 名 : ヒョウリ 知ウ **SAMPLE** 47 才 男 患者番号 : 123456 採取日 : 2020/1/7

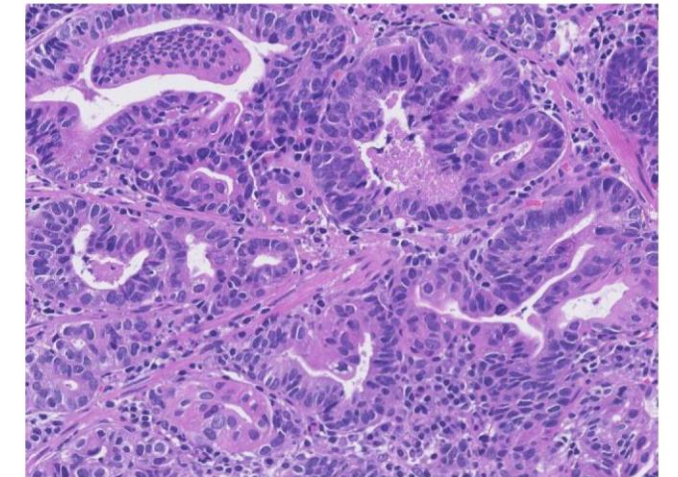
依頼医療機関名 : パソネット医院

依頼医 :

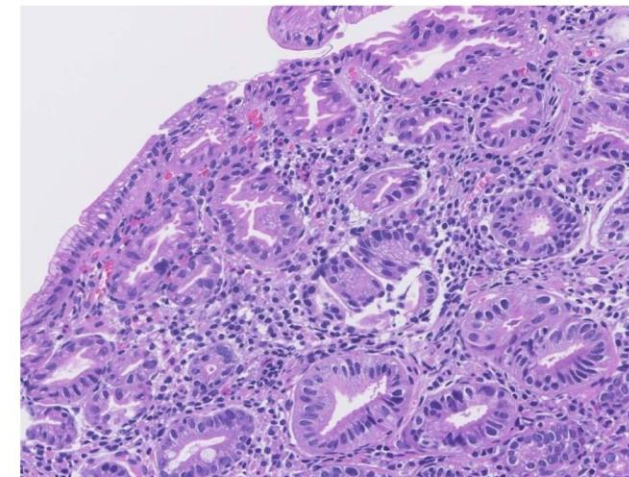
検体 : 胃



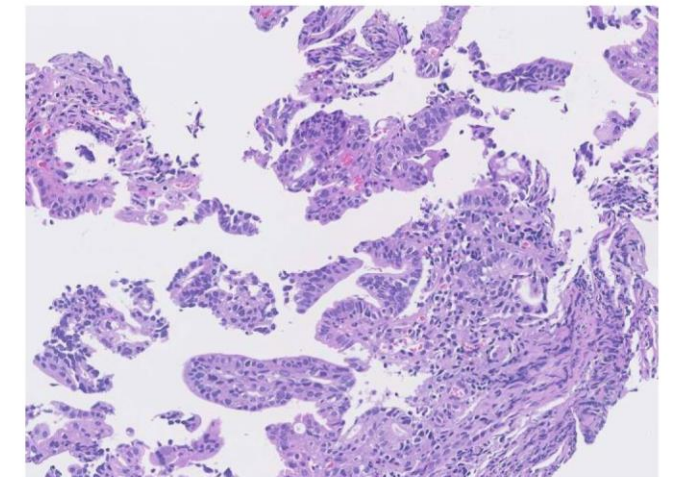
標本②-1



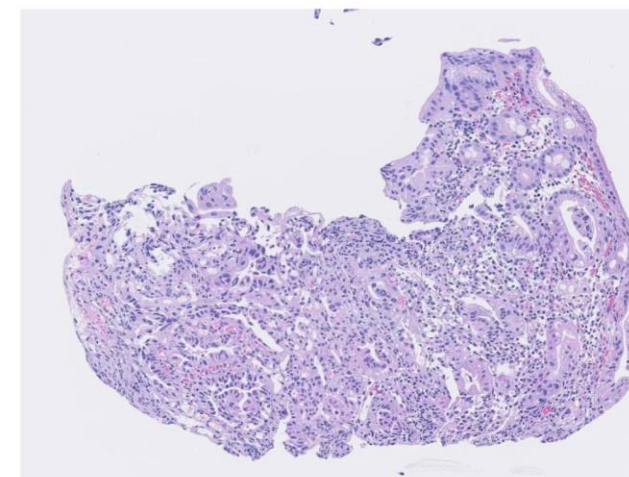
標本②-2



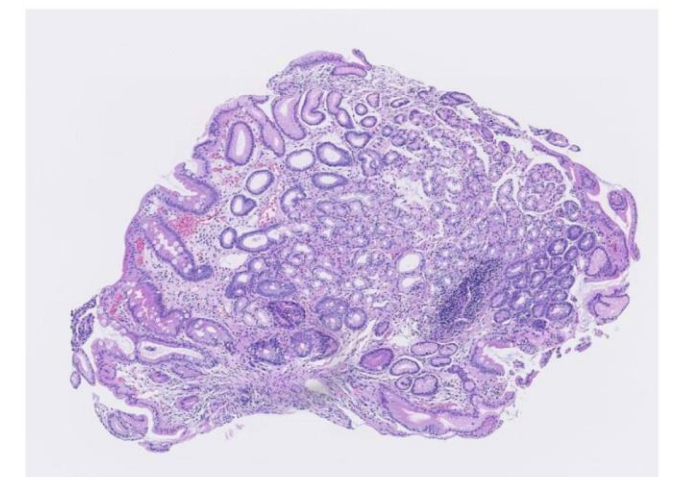
標本②-3



標本①



標本③



標本④

報告日 : 2020/1/10

(株)パソネット

病理医 1 : 組織 良子

病理医 2 :

本報告記事を公表される際は予め弊社までご連絡ください。